

## 大野川流域ネットワーク10周年記念シンポジウム 参加記録

○平成21年5月23日(土)	エイトピアおおの・河童小屋
○「いい川・いいまちづくり 夢アイデアコンテスト」の概要報告	木寺佐和記
○禅談閑話(講師:都留嶺芳師)記録	平井 一男
○パネルディスカッション 議事要旨	波木 健一
○写真整理	山本慎太郎

<大野川流域ネットワーク10周年記念シンポジウム>

**川づくり、地域づくりの夢物語**

日時:平成21年5月23日(土) 10:00~17:00  
場所:エイトピアおおの(豊後大野市三重町)

10:00 ● いい川・いいまちづくり夢アイデアコンテスト  
「皆が描く夢の発表会(大人の部・学生の部・子供の部)」

13:00 ● 大野川流域の10年間の歩みを振り返る  
「市民と行政が一つになって  
「川づくり」に汗をかいた10年間の足跡を語る」

14:20 ● 講話 萬休寺住職 都留嶺芳  
「自然に生きる」

15:10 ● パネルディスカッション  
「川づくり・地域づくり・市民活動の現状と未来を語る」

18:00より豊後大野市犬飼町の河童小屋で交流会を開催いたします

コーディネーター 山 道 省 三(NPO法人全国水環境交流会代表理事)

パネラー 大 沢 浩 一(NPO法人鶴見川流域ネットワーク理事)  
村 田 幸 博(熊本市南部市民の会会長)  
帯 谷 博 明(奈良女子大准教授)(専門:環境社会学)  
井 上 靖(大分県企画振興部観光・地域振興局長)

主催:大野川流域ネットワーク  
共催:大野川流域懇談会  
後援:国土交通省九州地方整備局・大分県・竹田市・豊後大野市・大分市・大分合同新聞社  
NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・エフエム大分  
協賛:(株)三和酒類  
協力:(社)建設コンサルタンツ協会九州支部・共助ネットワーク研究会  
問合先:豊後大野市犬飼町田原834-2 河童小屋 電話・ファックス:097-586-8022  
mail:ohno-kappa@red.oit-net.jp

この事業は、財団法人河川環境管理財団の助成を受けて実施いたします

## 「いい川・いいまちづくり 夢アイデアコンテスト」の概要報告

### 1. 概要

5月23日(土)の記念シンポジウム(豊後大野市三重町・エイトピアおおの)の午前の部において実施された「いい川・いいまちづくり 夢アイデアコンテスト」は、主催者事務局長で共助研の会員でもある幸野敏治さんが、建設コンサルタンツ協会九州支部での「夢アイデア企画事業」にヒントを得て、開催されたものである。

冒頭、共助研の会長で、「夢アイデア企画事業」の創始者でもある針貝会長より、協会での「夢アイデア企画事業」の全体像の紹介と大分県に関係ある過去の優秀作品等の紹介を兼ねた挨拶が行われた。

発表作品は、下記のとおりであった。発表後、「針貝会長」と「午後のパネルディスカッションのコーディネータ・パネリスト」より構成された審査会での審査が行われ、午後にはその結果発表と表彰があった。発表時間は7分で全員がパワーポイントを使用され、発表毎に会場から質問・意見を受ける形式で進められた。子供の部のみは、作文を読み上げる形で発表された(なお、本概要報告は、会場でのメモによる概要報告であり、正式記録では無いことを申し添えておきます)。

#### (1) 一般の部

- 1) ストップ! 河川水難事故(大分県河川課 玉田 慎也さん)
- 2) 魚にやさしい川づくり(大分県河川課 宗 正治さん)
- 3) 川を俯瞰(ふかん)するルートマップ(九州建設コンサルタント(株)甲斐浩志さん)
- 4) 沈没発電所跡の保存・活用(緑のふるさと協力隊 板谷 大河さん)
- 5) ホタルの舞う町づくり(大野川桜つつみ愛護会 佐々木 重信さん)
- 6) 柴北川を愛する会(柴北川を愛する会 渡邊 雪法さん)

#### (2) 学生の部

- 1) 大野川にトキを・・・(大分大学教育福祉科学部 吐合 沙織さん)
- 2) 高専生が考える川づくり・まちづくり(大分工業高等専門学校都市システム工学科 阿部 将太さん、舩添 領さん)

#### (3) 子供の部

- 1) 理想の川(三重中学校3年 近藤 恵理子さん)
- 2) こんな柴北川だったらいいな など(長谷小学校 一同)
- 3) こんな川あったらいいな(丹生小学校4年 安藤 緒海さん)

### 2. 発表作品と質疑の概要

#### 2.1 一般の部

##### 1) ストップ! 河川水難事故

神戸市灘区都賀川での水難事故等の例を挙げながら、「川は魅力も大きい、危険性も大

きい」ことを説明し、大分県では「水難事故防止用の冊子をホームページでも紹介している」、「危ない時、川をよく知っている人（大抵は年配者）の声かけが有効である」等を発表された。

## 2) 魚にやさしい川づくり

大分県で策定しているマニュアル「魚にやさしい川づくり手順書」の中身を、調査、課題抽出、計画の策定、施工における留意点、維持管理の順番に紹介された。質問・意見として、「地域の人意見を汲み取る方法はどうか?」、「水質検査が重要」、「昔、魚のすみかとして大切な河川内の大石が除去された例があり納得いかない」等が出された。

## 3) 川を俯瞰（ふかん）するルートマップ

大野川には、筑後川等と比べると、川を俯瞰できる高台・丘がたくさんあり、そこからの眺めはまたひとしおということで、具体的な場所・ルートも発表された。質問・意見として、「他にもこんな良い場所がある」という紹介があった。

## 4) 沈没発電所跡の保存・活用

緑のふるさと協力隊の第16期隊員として、最近豊後大野市の来られている板谷さんが、沈没発電所直下流の「重厚な石造りの外観の発電所建物跡」を「横浜赤レンガ倉庫」の保存・活用の例を出しながら、カフェ等に有効利用できれば素晴らしいと発表された。質問・意見として、「滝保存会はあるのでぜひ一緒にやりたい」、「現実としては洪水時に水位が上がるので難しい」等が出された。

## 5) ホタルの舞う町づくり

大野川の下流の大分市大在地区は、ため池が多く、小川もある。小川の一つの江川において、「昔のホタルの舞う川に戻す会」を立ち上げて活動していることを紹介された。「九州内にも多くの先進事例があるので参考にしたら良い」、「専門家の意見を聞いた方が良い」、「洪水時の逃げ場所としての田んぼの畦を大切にしたら良い」等のアドバイスの意見が多くあった。

## 6) 柴北川を愛する会

一般の部最後の発表。大野川の支流の一つの柴北川を愛する会の活動内容について話をされた。山桜が大変多く美しい地域であること、「花いっぱいの里」にすることを目標に様々な花や木を植えているとお話であった。また、若い人たちへの地域活動の引き継ぎ努力をしている、流域独自の「お助け隊」を結成しているとお話もあった。質問・意見としては、「花や木を植えるのであれば自生種が望まれる」とのコメントがあった。共助研の波木事務局長から「お助け隊として、地域外の人・団体に要望されるようなことがありますか?」と質問したところ、「若い人の参加、外部ならではの知恵等が欲しい」と答えられた。また、「子供達へどう引き継いで行こうとしていますか?」という質問には、「小学校が廃校になるので困っている」とのことであった。また、具体的な課題として「山桜のまわりの除伐の手伝い」、「休耕地の活用」を挙げられた。

## 2.2 学生の部

## 1) 大野川にトキを・・・

大分県竹田市岡本地区で行われた「環境負荷を最小限にした圃場整備」の理想の姿として「トキの舞う里づくり」の実現について、フォトモンタージュでトキの舞う様子を示しながら、そのためには、現状をきちんと調査・把握する必要があること、特に水質調査が重要となること等を発表された。「大分（九州）にトキ」という発表には、驚いた方も多かったと思われる。

## 2) 高専生が考える川づくり・まちづくり

高専生の「川遊びの実態」を、アンケート調査に基づいて3年生と5年生の回答結果の違い等の特徴も含めて発表された。また、高専生が理想とする川のイメージ図の紹介もあった。会場から「ぜひアンケートを継続実施して、今後の意識の変化も把握して欲しい」との意見があった。

### 2.3 子供の部

子供の部は、「ご本人達による作文の朗読」という形で発表された。内容はもちろん、ほほえましい姿に会場より大きな拍手があった。

## 3. 審査結果

審査結果発表前に、審査会を代表して「針貝会長」による全体講評があった。甲乙付けがたく、当初予定に無かった「奨励賞」を設けた等の説明が成された。

### 3.1 一般の部

- ・ 最優秀賞：「柴北川を愛する会」
- ・ 優秀賞：「魚にやさしい川づくり」、「ホタルの舞う町づくり」
- ・ 奨励賞：「ストップ！河川水難事故」、「川を俯瞰（ふかん）するルートマップ」、「沈没発電所跡の保存・活用」

### 3.2 学生の部

- ・ 最優秀賞：「大野川にトキを・・・」
- ・ 優秀賞：「高専生が考える川づくり・まちづくり」

## 4. 感想・コメント

会場からの質問・コメントの活発さには正直、少し驚きました。理由の一つとして、発表テーマが「大野川流域に関係する地元の話題」ということもあったかとは思われますが、民、官、学の連携が上手に進んできた大野川という特長が現れていると思われました。共助研としては、波木事務局も注目されていた「柴北川を愛する会」等との協働の可能性がある感じられました。シンポジウムを通じて、これからの10年の地域活動は、高齢化の影響等で大野川流域においても、これまでより、条件・環境が一層厳しくなっていくのは間違いないということに関係者は自覚されているようでした。そういう現実もありますので、共助研活動への具体的なニーズがここにもあると感じました。（文責：木寺 佐和記）

## 大野川流域ネットワーク10周年記念シンポジウム 記録

◆講話題 禅談閑話

◆講師 都留 嶺芳(つる れいほう)

### 1. はじめに

「禅談閑話」とは・・・

「閑話」とは、大辞泉によると『1 むだばなし。 2 心静かにする話。もの静かな会話。「一夕の を楽しむ』』と。また、禅談の禅は、『1 精神を集中して無我の境地に入ること。 / 2 「禅宗」の略。』とあり、「談」は、『1 話す。語る。 / 2 話。話した事柄。』とあります。

結局のところは、住職の話を静かに聞き、自分自身に照らし合わせて、過去の自分を反省してみるというように理解しました。

### 2. 記録

住職の話は、禅問答などのネタに、人生の教訓的なことを話してくださいました。いわゆる「議事録」というものに馴染まないような気がしました。そこで、きちんと理解しているかどうかは怪しいが、話し手から感じた、受け取ったことを記録します。他の方とは、感じ方が違うかもしれませんので、ご容赦ください。

お布施の心は川づくり(活動)そのもの

仏教ではお布施をします。布施は、慈悲の心をもって、他人に財物を施すことですから、川づくりも、その活動が地域の人々に奉仕するのと似ているというように解釈しました。

川づくりはお布施と同じく、義務感でなく自主的に行うということです。付け加えると、川づくりは楽しんでやるということもできるかもしれません。

平常心 ~今取り組んでいることに全てを注ぐこと~

「茶に逢えば茶を喫し、飯に逢えば飯に喫す」・・・直訳すれば、「お茶の時はお茶のことを考える、ご飯の時はご飯ことを考える。」というところでしょうか。平常心とはそういうことらしいです。

つまりは余計なことは考えないこと。今取り組んでいることに、「これが失敗したらどうしよう」とか、「果たしてうまくいくんだろうか」など、余計なことは考えずに、今取り組んでいることに全力を注ぐことが良い。共助研の活動も、余計なことは考えずに、ガンバってみる、というところでしょうか。

文責：平井一男

## パネルディスカッション議事要旨

### 「川づくり・地域づくり・市民活動の現状と未来を語る」

コーディネーター 山道省三（全国水環境交流会代表理事）

パネラー 大澤浩一（鶴見川流域ネットワーキング理事）

村田幸博（地域づくり団体熊本県協議会）

帯谷博明（奈良女子大学准教授）

井上 靖（大分県企画振興部観光・地域振興局長）

#### 【大野川流域ネットワーキングをどうすればよいか。大野川の良いところは】

- （大澤）大野川と鶴見川の共通点は、持ち場で活動している人がいて、幸野さんのようにそれらの活動をつなぐ人がいて、流域の仲間の協力があること。
- （村田）当初から、大野川は九州のモデルになるという予感を感じさせていて、皆さんの熱意・活動が随所に表れていた。外からの視点で見ると、地元では見えないところが良く見える。頑張ってもらいたい。
- （帯谷）8年前に大野川の活動に参加してみて、白山川、白水ダムなどの人々の暮らしの知恵に感動した。ネットワーキングにより、多様な人々で構成されていることが強み。また、それぞれの団体をまとめる仕掛けとして、あわてずじっくりと楽しみながら取り組んできたことが強み。
- （井上）地域づくりにおいては、如何に住民の参加意識を形成するかが課題で、人々のゆるやかなネットワークがあることが重要で参考にしたい。今回取り組む「結」（YUI）は、下流と上流の互いの地域活動を助け合う活動と聞いている。大分県では、「地域対策本部会議」の活動として、HPで登録できる「集落お助け隊」募集を進めている。
- （山道）大野川流域ネットワーキングでは、連携・協同とかではなく、市民が行政に提案して行政を巻き込む体制が出来ている。これが大事だ。
- （大澤）個々の団体同士でお互いに助けあう、相互扶助のような関係がある。そういういい付き合いの環境を大野川も作ってきた。
- （村田）市民運動といえば聞こえが良いが、意外と烏合の衆が集まると何もしない。市民運動では、誰かのリードが必要で、中心的な人がどう考え、どう操作していくかが重要。本日の夢コンテストでは、県職員が発表していて素晴らしいと思った。連れて帰りたいぐらい。
- 多自然型、近自然型の川づくりではたいがい失敗してきた。魚の住める川を発表した方は、是非魚を捕って遊んで欲しい。魚たちが川づくりを教えてくれる。感性と技術を持った人が出てこない日本の川の再生はできないのではないかと。

【地域の人、国土管理などに係わっていくための課題は】

- (帯谷) 10年前に法律ができたNPO法人の活動については、見えない壁がある。財源的な苦しさがあるが必ずしもバラ色ではない。「新しい公」の理念はそのとおりなのだが、現実として絵に描いたモチで、まだ道半ばとなっている。淀川流域では、行政、大学、NPOがお金を出して、地域の人に洪水の記憶を聞いて記録している。地域でしかできない情報を集めていくことが地域の力をつけていくために重要。
- (山道) 地域における新たな動きを、行政と一緒に新しい公共事業として発生させる余地があるのでは。地域の人から情報を出して加わっていくことで事業を興すという観点、若い人が生活できる職場ができると良いのだが。

【大野川流域ネットワークを、これからの10年どうしていくのか】

- (大澤) 人口減少と高齢化が問題化する。これまで流域で培ってきた人間関係がペースとなる。流域の中から応援隊を組織化していくという新たな試みが必要。
- (村田) 30年間のまちづくり経験で、情報は3歩先、行動は半歩先、1歩先に行ったら失敗すると言ってきた。地域づくりの参考として水俣市の頭石(かぐめいし)ツーリズムとして人吉球磨のひまわり亭の本田節が進んでいる。人がいて、仕掛けがしてある。大野川では、一村一品の再度の仕掛け、流域連携で物事や仕組みを考えたら、生活基盤がうまくできるという予感がする。
- (帯谷) この10年間蓄積してきた人の関係性を地域の大きな財産として、「結」の取り組みにつなげて発展させる。その際に、大学と地域との連携を図り、大学を活かして欲しい。
- (山道) 大野川で形成されてきたネットワークの魅力、行ってみたくなる、人に会いたくなるという魅力がある。大野川の産・官・学・民の連携は、これから10年の全国のモデルになる。

【会場からの質問と回答】

- (会場) 「結」という取り組みは、古くから全国であった。「結」の制度のうまくいっている地区を紹介してほしい。
- (村田) 白川郷の「結」のほかに、「もやい」というものもある。自分たちの地域・集落で問題解決能力を発揮する仕組み体を作ること。大野川では、あと10年すれば集落が崩壊するところが多く出てくる。そのために、産業界を連携で興し、子供たちが暮らしていける仕組み体の種まきを今からしておき、自分たちに最もあう方法で作るのが良いのでは。
- (大澤) 横浜では、社会福祉法人「たすけあいゆい」というのがあって、支援を受けたい人、支える人が協力できる体制ができている。アパートなどの空き家活用プロ

ジェクトが動いており、借り手と貸し手をつなぐ地域組織となっている。確実にニーズがあり、どういう風に形にしていくかが事業となっており、若い人の関心も高い。

(井上)川を地域づくりの種として、産業に結びつけていきたい。そのための組織作り、人づくりに行政として支援していきたい。

(山道)地域振興や観光振興の取り組みでは、新幹線がない方が良いような気がする。派手なことではなく、本当に大野川にふさわしい景観、文化的な資源などを守っていくという目を養っていく、そういう視点の活動を期待したい。

【以上】

### 【感想】

大野川の10年間のネットワーキングによる地域連携は、全国でも特筆すべき稀有な活動

昨年の共助研設立に飛び入りで参加していただいた幸野さんを通して、大野川の活動を知りました。その後、河童小屋、ホームページ、様々な活動イベント等の情報を断片的に確認してはいましたが、ネットワーキング組織後の10年間の活動を通して、流域の多くの場所で始まった地域活動の緊密な連携が進み、流域内での共助の仕組みが具体化していることには、驚き、感心しました。

川という共通の舞台がつかないとはいえ、その特性を的確につかみ、地域単位の活動を緻密につないでいかれた幸野さんたちリーダーの方々の先見性と実行力に改めて感服します。

また、この地域連携の大きな特徴は、国、県、市町村の行政がその垣根を無くして、対等に住民の方々と連携されていることです。事前のシンポジウム準備会議にオブザーバーとして参加させていただいて最も驚いたのがこの点で、和気あいあいと議論を交わされており、メーリングリストによる日頃の情報交流も官民の垣根を感じさせないフレンドリーなものとなっていて、多くのパネラーがこの点を高く評価されていました。

これからの10年は、培った人のネットワークを活かしながらの地域づくりが重要  
活動開始後10年目を迎えて、当ネットワークの活動テーマも、「川づくり」から「地域づくり」へとシフトしつつあるようで、パネラーの多くがその点に重点を置いた指摘をされていました。

これまでの活動で、地域内に川と流域の暮らしに係る専門家が養成され、その専門家をリーダーとする流域内の人々の関係性づくりが進んできましたが、今後はさらに一歩進めて、人口減少・高齢化の進む地域の暮らしを支えあう仕組みづくりが求められています。



行政によりそのための仕組みづくりが取り組まれています。その展望するところは、地域の方々が地域づくりの専門家となって、お助け隊などをうまく活用しながら産業興しや生活基盤整備を進めていく、そんな仕組みの形成です。

この地域内での専門家養成に対して、第三者としての共助研の関わり方があるように思います。大野川流域ネットワークの活動第2段階では、我々都市側との関わりが重要な役割を果たすのかも知れません。

(文責:波木健一)

## 大野川流域ネットワークシンポジウムのうち写真整理

日時：平成 21 年 5 月 23 日（土） 10:00～17:10（交流会 18:00～22:00）

場所：大分県豊後大野市三重町エイトピアおおの（シンポジウム）

大分県豊後大野市犬飼町河童小屋（交流会）

出席者（共助研）：

針貝会長、波木、江中、木寺、玉田、濱田、平井、山本（敬称略）

受領資料：

- ・ 資料① 大野川流域ネットワーク 10 周年記念シンポジウム 川づくり、地域づくりの夢物語
- ・ 資料② いい川・いいまちづくり夢アイデアコンテスト

### 【内容】

#### 1. いい川・いいまちづくり夢アイデアコンテスト



針貝会長あいさつ



応募者の発表（一般の部）



応募者の発表（一般の部）



応募者の発表（学生の部）

## 2. 開会式



### 3. 夢アイデアコンテスト表彰式

 <p>功労者の表彰</p>	 <p>功労者の表彰</p>
 <p>針貝会長の講評</p>	 <p>一般の部表彰（最優秀賞 柴北川を愛する会 渡辺氏）</p>
 <p>学生の部表彰（最優秀賞 大野川にトキを・大分大学 吐合氏）</p>	 <p>受賞者全員</p>



理想の川（三重中学校 近藤さん）



子供の部 三重中学校 近藤さんの発表

#### 4．大野川流域の10年間の歩みを振り返る



国土交通省大分河川国道事務所地域連携課 南嶋哲郎課長



大分県河川課企画調査班 森田賢一氏



大野川流域ネットワーク事務局 幸野敏治氏

5 . 講話 都瑠嶺芳（久住町・萬休寺住職）



萬休寺住職 都瑠嶺芳師による講話

久住高原の民謡披露

6 . パネルディスカッション



パネルディスカッションの様子

パネラーの方々

幸野事務局長のあいさつ

7. 交流会の様子 (犬飼町河童小屋)



## 【感想】

シンポジウム自体は、会場設営をはじめ企画、運営に至るまで大変に立派なもので、皆さんの取り組みを見ていると楽しさや情熱が感じられ、大野川に関わる様々な分野の方々が流域ネットワーキングの10周年を心から祝っていることが伝わってきました。また、既に大野川での活動を離れられた国や県のOBや現職員の方々が、遠方にもかかわらず数多く出席されるなど、大野川流域のネットワーク（絆）の強さに少し驚きを覚えました。

交流会では、幸野さんがおっしゃっていた「河童小屋の敷地に入ったら皆同じ」という言葉に違わず、年齢や立場に関わらずに気軽に話しをされる方々、初対面の私たちにも気兼ねなく声を掛けてくださるなど、楽しい時間を過ごさせていただきました。大野川支流の野津川で川遊びをして育った私にとって、地域でこれほどの活動が継続されていることに誇りを感じ、昔この川で遊んだ記憶が蘇り、親しみが持てました。

しかし、良いことばかりではなく、この地域も人口減少と少子高齢化が深刻な問題となっており、今後、地域活動の維持が困難になってくることも考えられます。その時のためにも共助研のような活動を実のあるものにしておく必要があると思います。ただ、この流域は大丈夫かなという気もしますが・・・。

（写真撮影・文責：山本慎太郎）